

## ギターのチューニング方法

各弦の音程を、決められた高さに合わせることを  
“チューニング”と呼びます。

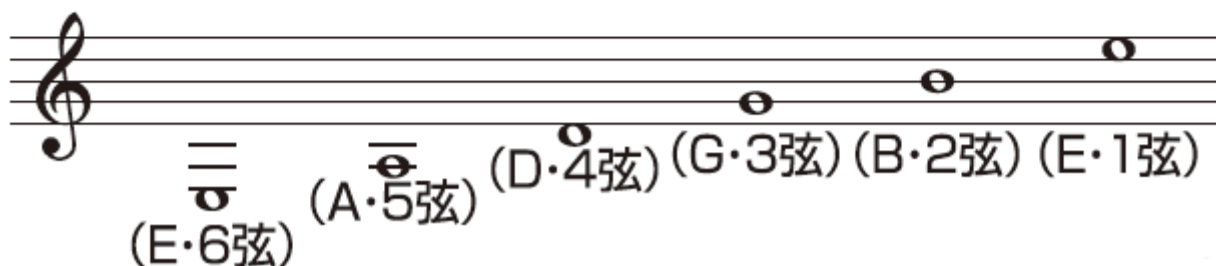
初めてギターを手にした時や弦を張り替えた時はもちろん、練習の前には毎回必ずチューニングをするようにしましょう。

各弦の音程

### ●音名の呼び方（アルファベット）

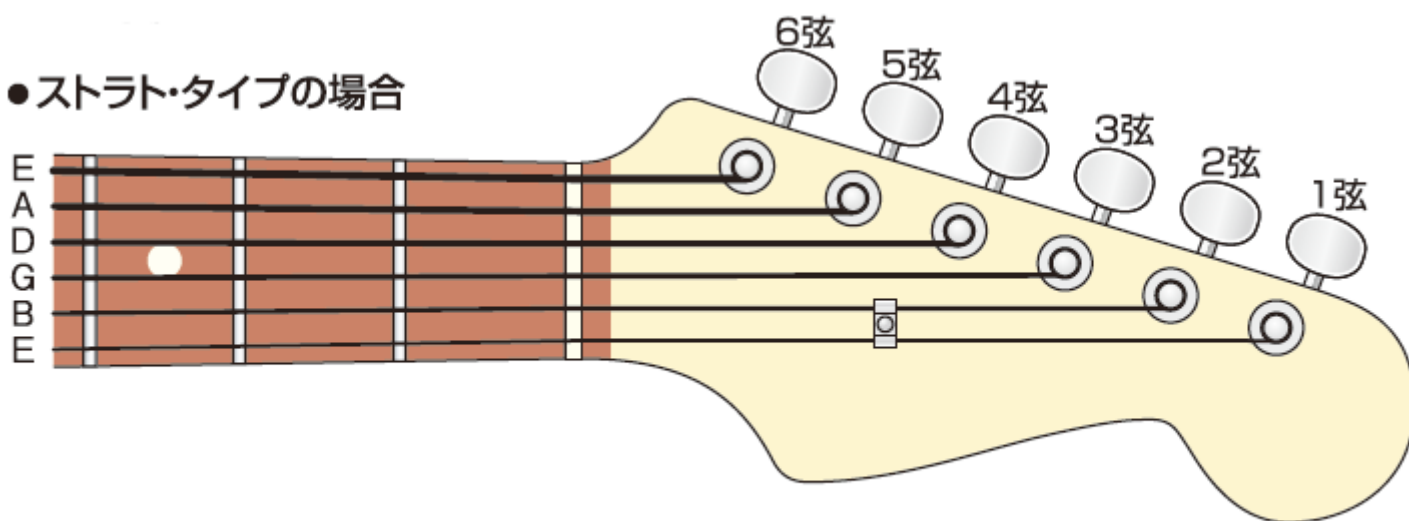
|   |   |   |    |   |   |   |
|---|---|---|----|---|---|---|
| ド | レ | ミ | ファ | ソ | ラ | シ |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ | ⋮  | ⋮ | ⋮ | ⋮ |
| C | D | E | F  | G | A | B |

### ●開放弦の音（レギュラー・チューニングの場合）



まずは各弦の開放弦の音を確認しましょう。開放弦の音とは、左手で弦を押さえずに鳴らした音のことです。またギターでは音程を“ド・レ・ミ・ファ……”ではなく、“C・D・E・F……”というアルファベットで呼ぶのが一般的。チューニングを始める前に、下の図を見てチェックしておきましょう。

### ●ストラト・タイプの場合



## ペグを回して音程を調節！

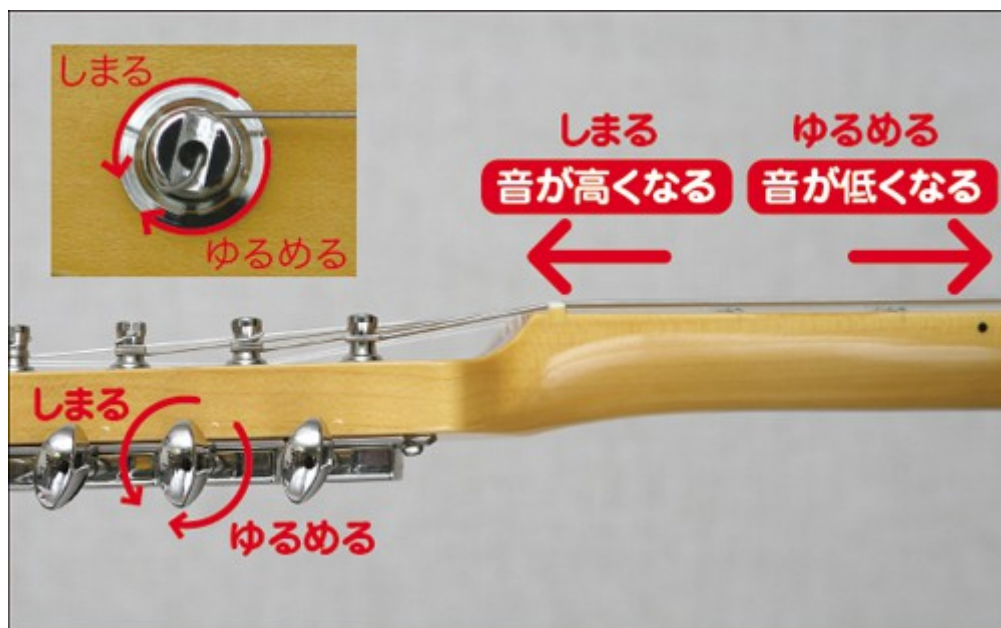
チューニング方法には、チューナーを使ったり耳で合わせたりなどいろいろありますが、いずれの場合も、ペグを回して音程を上げ／下げしていきます。

ペグを“しめる”方向に回すと音が高くなり（音程が上がる），“ゆるめる”方向に回すと音が低くなって（音程が下がる）いきます。ペグの軸に対して弦を巻いていく向きは決まっています、例えばストラト・タイプならば6～1弦まですべて反時計回りに巻いていきます。



### レス・ポール・タイプの場合

6～1弦までのペグが一行に並ぶストラト・タイプとは違い、レス・ポール・タイプのペグは6～4弦、3～1弦と、ヘッドの左右半分に3つずつ分かれて並んでいます。6～4弦はストラトと同じく反時計回り、3～1弦は時計回りとなるので注意しましょう。

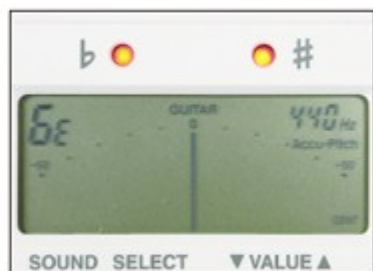


### チューナーの使い方

#### ●チューナーの種類



▲針タイプ



▲液晶タイプ



▲LEDタイプ

チューナーのディスプレイには、アルファベットでの音名とともに、メーターなどによって音の高／低が表示されます。メーターは製品により針や液晶でのアイコン的なもの、またLEDの点灯式などがあり、いずれも目で見て直感的に音の高低が伝わるものになっています。

## ●チューナーの見方



弦を1本鳴らし音程がジャストならば、針はディスプレイの中心で止まります。表示が右側にいった場合は音程が高過ぎる(シャープしている)ので、ペグを弦がゆるむ方向に回します。逆に左側に表示がいった場合は音程が低過ぎる(フラットしている)ので、ペグを弦がしめる方向に回しましょう。ペグは少し動かすだけでも音程が変わるので、ディスプレイを見てしっかりと合わせよう。

## いざチューニング！

**ステップ①** 6弦を鳴らす。



**ステップ②** チューナーを確認。



**ステップ③** ペグを回して音程を調整。

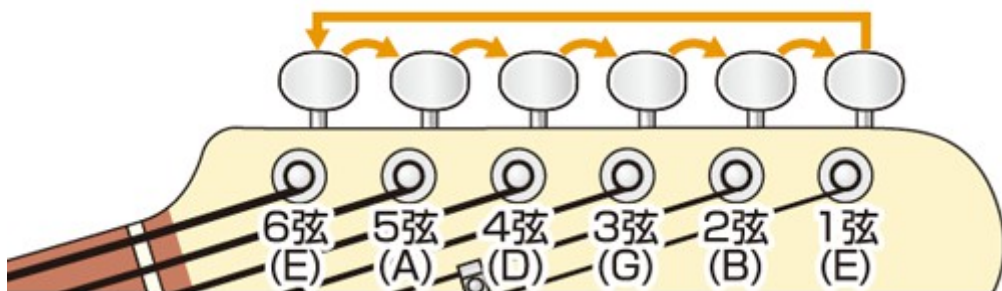


**ステップ④** メーターが中央を示せば、音程はジャスト！



ギターをチューナーに接続してチューナーの見方をチェックしたら、いよいよチューニングです！  
まずはギターを構えて最も手前にある一番太い弦＝6弦から合わせていきましょう。

チューニングは最も太い6弦から、5弦、4弦……と順に行なっていきます。仮に1本だけ音が合っていないように感じて、その弦だけではなく、6本すべての弦を確認しておきましょう。1弦まで合わせたらもう一度6弦から確認をし、合っていたらチューニングの完了です。



▲6弦(E)→5弦(A)→4弦(D)→3弦(G)→2弦(B)→1弦(E)の順番で音程を合わせていき、1弦まで終わったらもう一度くり返して確認すれば完璧！

正確なチューニングのコツ～チューニングは“しめる方向で”！



音程が低ければペグをしめて音を上げ、高ければペグをゆるめて音を下げるのが基本動作となります。ですがゆるめた時そのゆるみ方にムラが生じ、音程が不安定になってしまうことがあります。そこで上がりすぎた場合は一旦合わせたい音よりも下げて、しめる方向(上げていく方向)から合わせていくと、より正確で安定した状態にチューニングすることができるんですよ。